

日本保育学会第75回大会 課題研究委員会シンポジウム

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I
－ 予備調査から明らかになったこと－

職員間の関わり・職員対応について

東京家政大学 花輪 充

1. はじめに

—— コロナ禍が続く中、日々感染のリスクと闘いながら、多くの保護者や子どもと関わって、子どもたちの保育を担っている保育者たち。その姿はメディアを通じて悲痛な叫びとして私たちの耳目に入ってくる。

—— 保育者の負担は半端ではない。玩具消毒、室内備品の除菌、換気などの業務等が通常業務に加わり、負担の増加は収まる気配さえないといえよう。

—— そうした中、保育者たちはいかにして、保育業務に対峙しているのだろうか。この度の質問紙調査の回答から見えてきたものは、ピンチをチャンスと捉えようとする保育者たちの姿勢である。そこには、コロナ禍における子どもとの関わり、職員間のかかわりから得られた気づきや工夫、それに裏付けられた保育への探求が感じられる。

2. 目的と方法

▶青木は、保育の場を共感的理解の場、すなわち「子どものみならず、保護者・保育者の様々な対話を生み出す」¹⁾ 場と捉えている。

→ このことは、「実習生として参加する学生やボランティア、地域の人々も同様であり、保育の場に参加する参加者全員の対話による豊かな学び・育ちを保障すると言える。

(中略) 子どもだけが理解され、学び、育つのではなく、ともに生活する保育者自身も理解され、学び、育つのではないか。質の高い実践の場とは、そこに参加するすべての者が対峙し、互いに学び合う場として位置づいているのではないか」²⁾ と提言している。

→ それは、秋田らの唱える「民主的対話空間としての多声的対話空間」³⁾「共感的理解の場であり、互いの育ちを支え合う場」⁴⁾ として、その機能はこれまで順調に稼働してきたといえよう。

新型コロナウイルス感染症の猛威に晒されるまでは・・・。

▶保育界においても新型コロナウイルス感染症の蔓延は、子ども、保護者、保育者に底知れぬ不安と難題を突き付けた。特に、コミュニケーションの営みを遮られることは、ヒト・モノ・コトとの繋がりを尊ぶ保育という仕事にとって息苦しさともなりかねない。果たして、彼らは、多声的対話的空間である保育現場をいかにして守り抜いてきたのだろうか。

「VI.職員間の関わり・職員対応について」では、

→ コロナ禍における職員間のコミュニケーションに焦点をあて、

- 1) 対話、
- 2) 協同、
- 3) 業務遂行、
- 4) 職員間の交流、
- 5) 職員間の連携、
- 6) 職員のモチベーション維持のための方略、

の6項目について質問紙調査の回答から保育者の現状を確認するとともに、ポストコロナに向けての課題を明らかにしていきたい。

調査内容（質問紙内容）について

「Ⅵ. 職員対応・職員間のかかわり」質問紙内容

Q15. コロナ禍における職員間のかかわりについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述してください。

1) 対話

- ① 平常時に比べ、職員間の対話が著しく多くなった。
- ② 平常時に比べ、職員間の対話が多くなった。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった。

理由（内容を具体的に記述ください）

2) 協同

- ① 平常時に比べ、職員間による協同の機会が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間による協同の機会が増えた。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の協同の機会が少なくなった。

理由（内容を具体的に記述ください）

3) 業務遂行

- ① 平常時に比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間による役割や分担が増えた。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間による役割や分担が少なくなった。

理由：（内容を具体的に記述ください）

Q16. コロナ禍における職員対応について、園として、また一保育者として努力・工夫されていることについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述ください。

（4）職員間の交流

- ① 平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している。
- ② 平常時に比べ、職員間の交流を推進している。
- ③ 平常時と変わらない
- ④ 平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている。

理由（内容を具体的に記述ください）

（5）職員間の連携

- ① 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている。
- ② 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会が不足している。

理由（内容を具体的に記述ください）

（6）職員のモチベーション維持のための方略

- ① 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている。
- ② 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している。

理由（内容を具体的に記述ください）

3. 結果と考察

213人から回収した調査内容（質問紙内容）を項目ごとに分析した結果と考察。

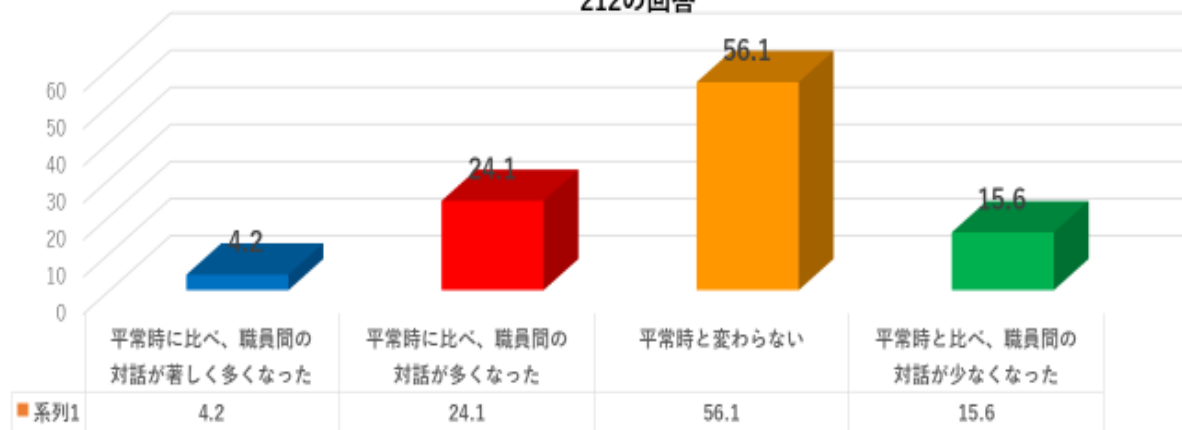
キーワード！

（１）「対話」に関して

1) 対話

- ① 平常時に比べ、職員間の対話が著しく多くなった。
- ② 平常時に比べ、職員間の対話が多くなった。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった。

（１）対話
212の回答



① 56.1%：平常時と変わらない

職員間の対話を、「**情報共有**」「**共通理解**」「**幼児理解**」といった**コミュニケーションの根幹を成す営み**とし、**開かれた関係をもたらす機会**と理解するコメントが多い。

② 24.1%：平常時と比べ、職員間の対話が多くなった

職員間において、**感染症対策、保育内容や方法、行事・カリキュラムを含め、相互理解のための対話（話し合い）の機会**が増えたこと、**当たり前を見直し、イレギュラーな対応措置に関するコメント**が多い。

③ 15.6%：平常時と比べ、職員間の対話が少なくなった

職員間での**交流機会（打ち上げ・会食等）が減少**したこと、**職員が集まらない時間が増えたこと**、Zoomでの会議が多くなり、黙食の励行に伴い**何気ない話をするような機会が減少したこと**などのコメントが多い。

④ 4.3%：平常時と比べ職員間の対話が著しく多くなった

平常時と比べ、感染対策を踏まえた上での、**保育内容・方法（行事や活動の進め方、普段の保育の捉え方等）に関する対話機会の増加**に対するコメントが多い。

(1) 「対話」を考察する

▶自由記述には、「マスクをしての対話になるが、あまり時間的に変わらない」「マスク着用で、換気をし、昼食での黙食以外は、変わらない」「マスクして会話し、コロナ状況下で話し合いすることが多かった」「以前と同様、分からないことなどその都度確認しながら、共通理解のもと進めていくようにしている」「今までとは違った形での保育の内容や方法、時期などの話し合いが多くなった」などとあるが、決して迷走して書いたものではない。

→ 彼らにとって平常時とは、**嘗てのことではなく、今置かれている現実そのものを指す**のだろう。**コロナ禍に身を置く中で涵養されてきた保育姿勢とも保育者力ともとれる**ものに違いない。

▶コロナ時代の新たな働き方（ニューノーマル）を示すものとも解釈できる。「マスクによって話しにくくはなったが、対話が少なくなることはなかった」という文言にはどこか余裕さえ感じる。

→ それは、**不自由とも思える日々に身をおき、捨て身になって子どもたちと対峙した者だからこそ言える言葉ではないか。**

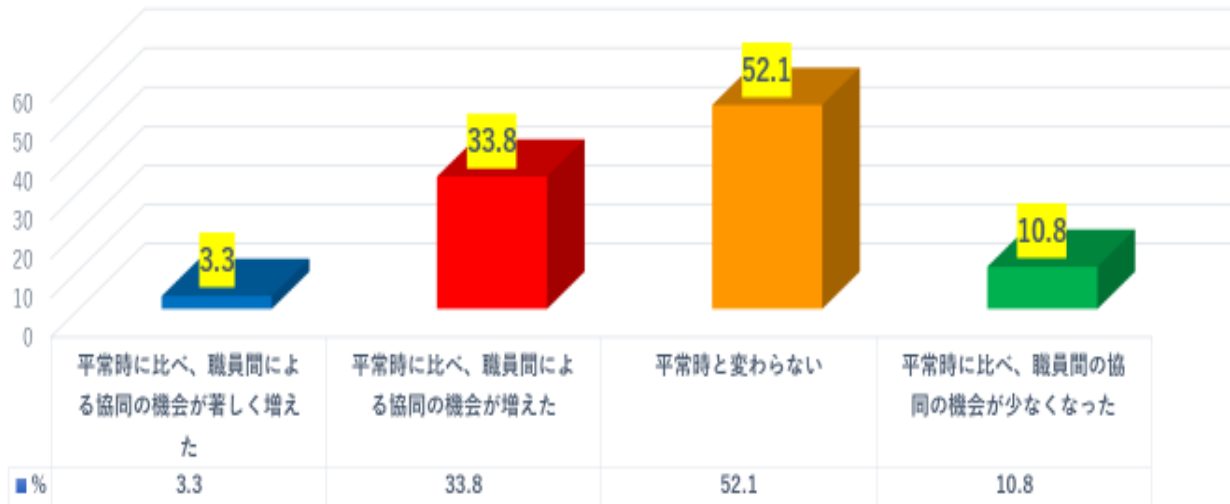
(2) 「協同に関して」

キーワード！

(2)協同

- ①平常時に比べ、職員間による協同の機会が著しく増えた。
- ②平常時に比べ、職員間による協同の機会が増えた。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員間の協同の機会が少なくなった。

(2)協同



①52.1%：平常時と変わらない

コロナ禍に関係なく、「協力して保育を行う姿勢」「チームとしての職員意識」「話し合いによる共通理解と助け合いの精神」とするコメントが多い。

②33.8%：平常時と比べ、職員間による協同の機会が増えた。

「最良の策について職員の意見を集約する」「職員間で考えを出し合い、連携して業務に取り組む」「話し合いなど共通理解の機会を増やす」など、協同する機会が増えたことに関するコメントが多い。

③10.8%：平常時と比べ、職員間の協同の機会が少なくなった

感染予防等のために協同・交流の機会が減少したといったコメント以外に、コミュニケーションの不具合から「協同の機会が少なくなったか、持ちづらくなった」とするコメントがあった。

④3.3%：平常時と比べ、職員間の協同の機会が著しく多くなった。

コロナ禍といった非常事態の中で、職員間で仕事のやり方を工夫したり、配慮すべき事柄を考えたり、助け合いの方略を検討するなどのコメントが目につく。

（２）「協同」を考察する

- ▶職員間による協同の機会が増えた要因が、**コロナ禍にあって、何が最良の取り組みであるのかを職員全員で意見を出し、話しあい、共有しあいながら日々の保育に取り組んだことと推察できる。**
- ▶「安全な生活の確保のため、教職員間で考えを出し合う必要があった」「自粛期間には環境整備や教材研究など、共同ですることが増えた」「遊ぶ時間が増え、全職員で子どもを見守る機会が増え、情報交換することが増えた」「行事の見直し等で意見交換する機会が増えた」さらに「共に支え合い、協力し合って動くようになった」と言わしめるものごとの流れが、**コロナ禍においてより職員間の連携を強める動機になった**ともいえるだろう。

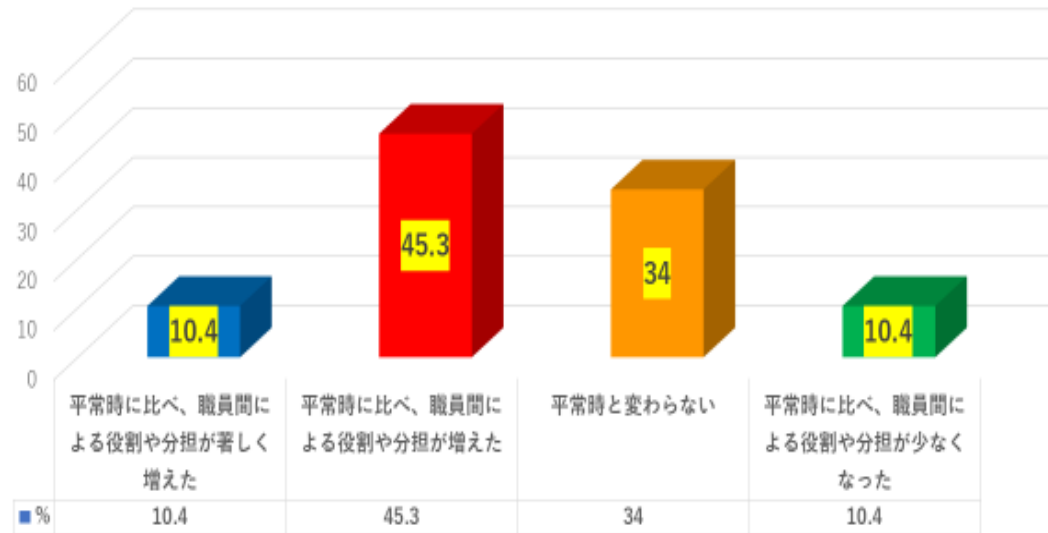
(3)「業務遂行」に関して

キーワード！

(3)業務遂行

- ①平常時に比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた。
- ②平常時に比べ、職員間による役割や分担が増えた。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員間による役割や分担が少なくなった。

(3)業務遂行



①45.3%：平常時と比べ、職員間の役割や分担が増えた。

平常時に比べ、**感染症対策（消毒作業、掃除、換気）に加え、保育環境の整備、保育内容・方法・行事等の練り直し、市への報告文書作成・提出等）の業務**が大幅に増えた！

②34%：平常時と変わらない

コロナ禍にあってもやるべきことはかわらない、冷静沈着に状況の変化に対応しようとする姿勢がみてとれる。キーワードは「**助け合いのシステム**」「**話し合い**」「**保育内容・方法の検討**」、「**職員のパートナーシップ**」となるのか。

③10.4%：平常時と比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた

コロナ対策（感染対策、保育活動の見直しなど）の仕事量に加え、ICT活用（情報発信等）にかかわる仕事や事務手続き（給食費返金・帳簿の記入など）の作業の激増など。

④10.4%：平常時と比べ、職員間の役割や分担が少なくなった

主な理由として、**行事内容等**の見直しによる**精選と縮小**があげられる。また、**働き方改革による新体制の構築（新たな役割分担体制等を含む）**も影響を与えているといえる。

（３）「業務遂行」を考察する

▶ここでは、②の職員間による役割や分担が増えた要因に着目したい。

→ 回答者の理由文には苦悶ともとれる文言が並ぶ。何はともあれコロナ対策の業務である、「玩具、遊具、机、いす、保育室他施設内の消毒作業」「市への報告文書作成」「感染症対策や、新しいやり方の模索、打ち合わせ」「罹患者や濃厚接触者への対応」それに加え、毎日の園児の体温チェックと消毒、保護者への感染防止協力依頼など、**これまでにない業務量をこなさざるを得なくなった**のである。

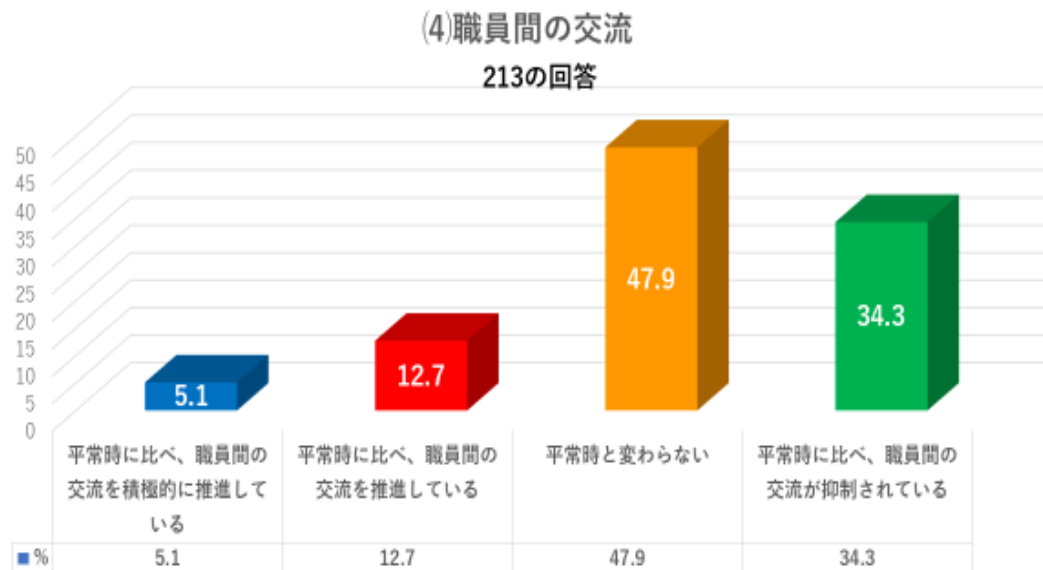
▶一方、働き方改革によって、「多様で柔軟な働き方の実現」に向けて動き出したところもあり、**新しい役割分担の体制づくり、パート先生の人数の見直し、仕事範囲の拡大、保育へのフォローと増員と改革の輪は広がりつつある。**

(4)「職員間の交流」に関して

キーワード！

(4)職員間の交流

- ①平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している。
- ②平常時に比べ、職員間の交流を推進している。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている。



① 47.9%：平常時と変わらない

交流の機会を「**情報交換**」「**保育の振り返り**」としているが、現実的には、「**心の距離を開けないとする重要なコミュニケーションの機会**」と捉えているのだろう。**何気ない会話が不安を癒す**営みとなっているのだろう。

② 34.3%：平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている

園によって事情は異なるが、**コロナの感染拡大防止を意識して、職員一人一人が自粛することを受け入れている**ことがわかる。**抑制されているという意識よりも自粛を当然とする気概**がコメントから読み取れる。

③ 12.7%：平常時に比べ、職員間の交流を推進している

コロナ禍だからこそ、創意工夫する中で、「**情報交換**」「**連携**」「**保育の振り返り**」「**改善と質の向上**」について話し合う機会が必要であるといった主張であろう。

④ 5.1%：平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している

ICTを活用した情報共有や連携の強化や人数制限をしながらの研修・交流に関するコメントなど、ポストコロナを睨んでの動きがはじまったととれる。

（４）「職員間の交流」を考察する

▶ここでは、コロナ禍によって歪んでしまった職員間の交流について回答者から理由文が寄せられている。

→「コロナ禍により職員研修旅行や懇親会ができない」「互いにコミュニケーションを取る機会が減ったと感じる」「勤務時間外の会や食事などは行わなくなった」「食事会の減少、会議の短時間化」「大人数での会議がなくなったり、リモートになった」「歓送迎会等の行事が中止、打ち上げ慰労会や親睦会行事の中止」「直接的な交流は先送り」など、一見、奔放に感ずる文言であるが、**実は人間がリフレッシュする上で大事にされなければならないこと**ばかりである。

▶**コロナ禍の発想ではないと一蹴するのではなく、新たな計画を共に模索してあげられるような寛大さが今後組織には求められる**のではないか。

(5)「職員間の連携」に関して

キーワード！

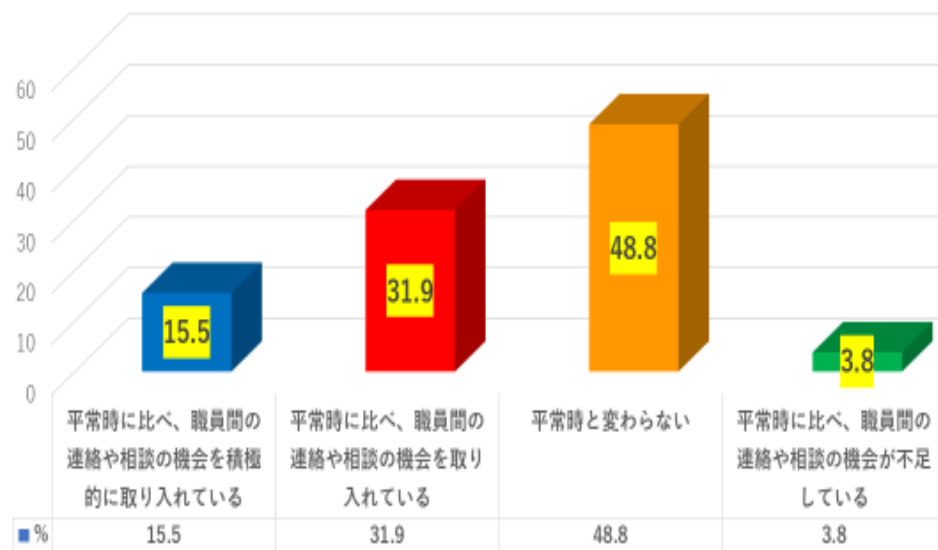
(5)職員間に連携

- ① 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている。
- ② 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会が不足している。

① 48.8%：平常時と変わらない

平常時から職員間の連携に常に努めているといった保育機関が多い。いかなる状況下においても、話し合い、報告し合い、相談し合える連携の体制をとれているとするメッセージは長年において築かれたものであろう。たとえコロナ禍にあってもそうでなくても変わらないとするコメントからは園のプライドを感じる。

(5)職員間の連携



② 31.9%：平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている

職員が安心して保育に向かうには、意見交換・情報共有を通じての共通理解が必要になってくる。日々刻々と変化しているコロナ感染症に立ち向かうにはまさに正確な情報の共有と職員の連携が求められる。

③ 15.5%：平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている

コロナ禍において職員のストレス軽減は喫緊の課題である。職員間の連絡や相談の機会を取り入れる中で個別面談、ケア・ミーティングを開催することは組織の質を保持するためにも大事な取り組みと言えよう。

④ 3.8%：平常時に比べ職員間の連絡や相談の機会が不足している

職員間の連絡や相談の機会が途絶えているところもある。コミュニケーションの機会が閉ざされているのか、思いを交流する機会が少ない、翌日の打合せさえ時間がとれないとのコメントに象徴されるように建設的な検討が求められるのではないかな。

（５）「職員間の連携」を考察する

▶ここでは、③の項目に着目したい。

→ 保育者同士の十分なコミュニケーションと連携が、豊かな教育場面を創起させる時、**保育者間の連絡や相談の機会はその営みにとって欠かせぬ手続き**となる。

▶回答者は理由文の中で、「必要なことは連携しあう」「いつも連携については心掛けているため」「必要なことや、共通理解することを考えて伝えるようにしている」と説き、保育における連携に対する意識が大切な事はコロナ禍でもコロナ前でも変わらないと主張しているが、**「コロナ禍だとしても、子どもたちの育ちを支えるために連携は必要であるから」**といった文言は実に直接的である。

▶また、「相談はいつでもできる体制を整えている」といったメッセージには心強さを感じる。**若手保育者にとっては、何事をも相談できる環境が必要**なのだから。

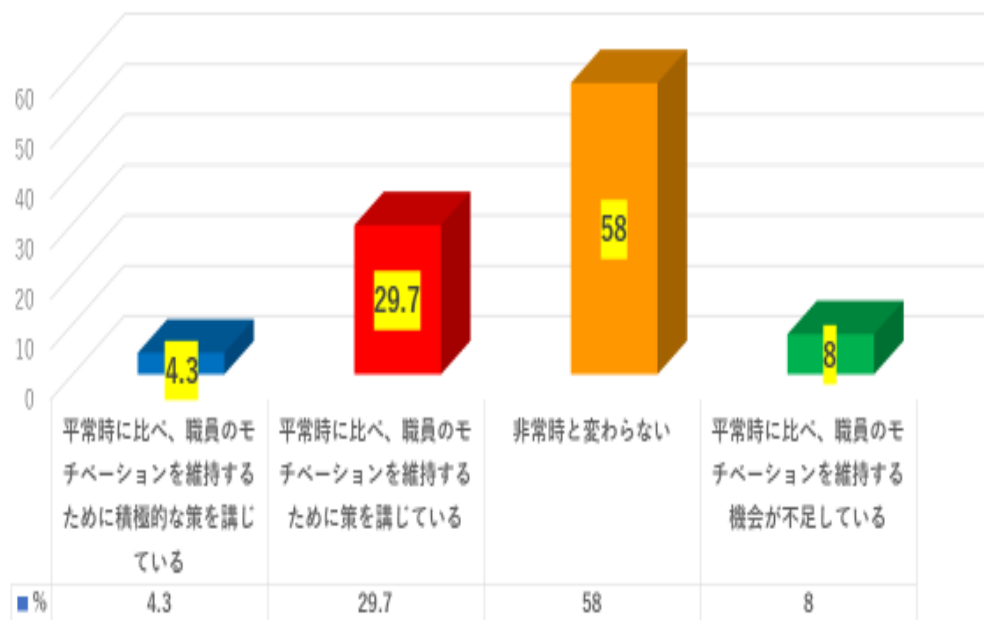
(6)「職員のモチベーション維持のための方略」について

キーワード！

(6)職員のモチベーション維持のための方略

- ① 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている。
- ② 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている。
- ③ 非常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している。

(6)職員のモチベーション維持のための方略



① 58%：平常時と変わらない

「当たり前を見なおしていく」「切磋琢磨していく」「仲間との会話を大切にする」など、個人によってモチベーションの維持の仕方はちがうが、**日常の中で学びの機会を増やす**など、**地道な営みがモチベーションの維持・向上に繋がっている**ようである。

② 29.7%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている

仕事の成果を可視化したり、**職員間の連携を深めるためにミーティングを開き、共感的声掛けをしたり、労ったり、感謝を表わしたり、対話的コミュニケーションの機会をもつ。**

③ 8%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している

「**正当な評価を受けづらい**」「**コロナ感染に振り回されてやりたいことが実行できない**」「**保護者から心無い言葉をかけられる**」「**研修機会の減少**」などが原因となって、モチベーションを維持できないとのコメントが目につく。

④ 4.3%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている

勉強会、研修等の実施と講習料補助、メンタルヘルス、この先いかなる策を講ずることになるのか。

（６）「職員のモチベーション維持のための方略」を考察する

▶ここでは、②の項目に着目したい。

→ モチベーションは、行動を起こす契機となる刺激や意欲と解釈されている。また、モチベーションを保つには、すぐに達成できる小さな目標を立てるとか、気分転換をするとか、自分を労らうとか言われているが、**気分転換、いかに上手にリフレッシュできるかがポイント**になる。

▶③の理由文には、「感染予防のため、職員同士で語り合う場や機会の減少」や「自分が正当な評価を受けていない」、「施設消毒、行内遂行等の変革について保護者から心ない言葉をかけられた」といったことに塞ぎこんだりすることがあったと記してあったが、そうした時必要になってくるのが**リフレッシュに向かう気構え**であろう。

▶②の理由文からは、「仕事量が増えたので、その成果を可視化して満足感が得られるようにした」「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT活用をはじめとした新しい方略のチャレンジを取り上げ、新規事業を進めるようにしている」「コロナ禍での職員のストレスを感じることがある為、モチベーション維持の為、積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を多く掛けるように意識している」「美味しいお菓子等の差し入れを行った」といった文言を目にしたが、**多くの保育者が、モチベーションの維持に取り組み、葛藤している**ことがわかった。

4. まとめ

質問紙調査の自由記述から、

- ①コロナ禍における**職員間のかかわり**を対話、協同、業務遂行の視点より、
- ②**職員対応**については、職員の交流、連携、モチベーション維持のための方略の視点より、考察した。

①については、

- ・これまでにない業務量をこなしながらも、**いかに他の職員とコラボレーションしていけばよいか、その一点に凝縮**されていたように思う。
- ・マスクによる対話、ソーシャルディスタンスの常態化が求められる中、**これらを達成するために負うべきストレスは計り知れない。**
- ・そうした中、**職員同士が話し合い、伝え合い、工夫し合い、協力し合うことを訴える「共に支えあい、協力し合っていく」といったスローガンを目にした。**
- ・やりにくさや過ごしにくさを逆手にとって、保育内容等を見直す機会と捉え、話し合いや共有の機会をこれまで以上に行っていこうとするその姿勢には、**コロナ禍に負けず、最善の保育のあり方を追求しようとする業務に対する情熱と責任感**を感じる。

②については、

- ・職員間のコミュニケーションの機会の減少を、webを活用しての連絡会、相談会、研修等を通して乗り越え、**職員が孤立しないようにする配慮**を感じた。

- ・内容にも親睦的な要素をもたせ、互いに必要なことを伝え合えあい、**連携を重視したあり方が実践され始めている**ようだ。

- ・職員のモチベーションの維持・向上についても、「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT活用をはじめ新しい方略のチャレンジを取り上げ…」「コロナ対応で気持ちが落ち込まないように、職員に積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を掛けるように意識している」といった、**組織としてのリフレッシュのあり方の模索が確実に始まっている。**

5. 今後の課題

今回は予備調査では、質問紙調査を依頼した園の種別が、214園中、幼稚園63か所が国公立、こども園72か所が公立にであったこと、園の所在地が、214園中、香川県88園、徳島県31園、東京19園にであったこと、それによって園の規模（園児数など）などに偏りが生じ、回答内容等（自由記述等）に反映していたことは否めない。本調査を実施する際の懸案事項である。

引用文献：

- 1) 青木久子・小林紀子著「幼児教育知の探究18 領域研究の現在（表現）」第3章§2-3、萌文書林、2013、p.273
- 2) 同上、p.273
- 3) 同上、p.274
- 4) 同上、p.274-275